

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

令和 7 年

文化・観光特別委員会会議録

令和 7 年 1 2 月 8 日

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

文 化 ・ 観 光 特 別 委 員 会 会 議 録

- 1 開会年月日 令和7年12月8日(月)
- 2 開会場所 議会第3会議室
- 3 出席者 (12人)

委員長 田 中 宏 篤	副委員長 伊 藤 延 子
委員 大 浦 美 鈴	委員 弓 矢 潤
委員 大 貫 はなこ	委員 村 上 浩一郎
委員 本 目 さ よ	委員(議長) 石 川 義 弘
委員 寺 田 晃	委員 富 永 龍 司
委員 太 田 雅 久	委員 青 柳 雅 之
- 4 欠席者 (0人)
- 5 委員外議員 (0人)
- 6 出席理事者

副 区 長	野 村 武 治
文化産業観光部長	上 野 守 代
文化振興課長	川 口 卓 志
大河ドラマ活用推進担当課長	(文化振興課長 兼務)
観光課長	横 倉 亨
- 7 議会事務局

事務局長	鈴 木 慎 也
事務局次長	櫻 井 敬 子
議事調査係長	吉 田 裕 麻
書 記	塚 本 隆 二
書 記	遠 藤 花 菜
- 8 案件
 - ◎審議調査事項
 - 案件第1 文化政策及び観光について
 - ◎理事者報告事項
 - 【文化産業観光部】
 - 1 旧東京音楽学校奏楽堂ホールの貸出休止について

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

-資料1 文化振興課長
- 2 大河ドラマ「べらぼう」活用推進協議会への支援拡充について
-資料2 大河ドラマ活用推進担当課長
- 3 訪日外国人観光客を対象とした商品マーケティング調査について
-資料3 観光課長

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

午前 9時59分開会

○委員長（田中宏篤） ただいまから、文化・観光特別委員会を開会いたします。

○委員長 初めに、私から一言御礼申し上げます。

過日実施いたしました行政視察におきましては、委員各位並びに理事者のご協力により、無事所期の目的を達成することができました。誠にありがとうございました。

○委員長 本日は、卓上マイクのスイッチを必ず押してから、ご発言願います。

また、理事者発言席を設けましたので、よろしくお願いいたします。

○委員長 次に、傍聴についておはかりいたします。

本日提出される傍聴願については、許可いたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長 ご異議ありませんので、そのように決定いたしました。

それでは、審議に入らせていただきます。

○委員長 案件第1、文化政策及び観光についてを議題といたします。

本件について、理事者から報告がありますので、ご聴取願います。

初めに、旧東京音楽学校奏楽堂ホールの貸出休止について、文化振興課長、報告願います。
文化振興課長。

◎川口卓志 文化振興課長 それでは、ご説明いたします。

資料1をご覧ください。項番1、休止施設は、旧東京音楽学校奏楽堂のホールです。

項番2、休止期間は、令和8年12月中旬から令和9年2月末までの予定です。

項番3、休止理由です。ホール舞台床は、楽器の移動などにより塗装の剥離が見られるため、再塗装工事をを行います。あわせて、ホールに設置しているスタインウェイ社製グランドピアノは製造から20年以上経過し、性能の低下等から、今後の公演に影響を及ぼさないよう買換えを行うものです。床の再塗装工事に1か月半、ピアノの入替えに1か月の計2か月半を見込んでおります。

項番4、休止による対応です。ホールにつきましては、台東区芸術文化財団の事業及び一般貸出しを休止しますが、建物の見学や収蔵資料などは通常どおり公開いたします。

項番5、今後の予定です。奏楽堂や区のホームページ、窓口等において、受付中止の周知を行います。令和8年12月中旬から令和9年1月末にかけて、ホール舞台床再塗装工事をを行い、2月にグランドピアノの入替えを行います。3月からホールの貸出しを再開いたします。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長 ただいまの報告について、ご質問がありましたら、どうぞ。

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

寺田委員。

◆寺田晃 委員 2か月半ということなんですけれども、私、素人なんであれなんですけど、2か月半で、休止期間で済むんなんだという印象を持っております。

ただ、再塗装工事に1か月半というのは大体想像がつくんですけれども、足場の設置を含む入替えに1か月って、あっ、そんなにかかるんだという印象なんですね。1か月半、この足場の設置を含む入替えに1か月半って、私は素人なので、大まかにどんな内容で1か月ぐらい入替えにかかるのかを簡単に教えていただけたら。

○委員長 文化振興課長。

◎川口卓志 文化振興課長 ピアノの入替えなんてですけれども、通常の搬入路とかがある施設であれば、もう少し短縮ができるんですが、奏樂堂が搬入のエレベーター等がなくて、ピアノをホールに運び出すのに搬入路がないというのが正直なところですので、客席に足場を設置しまして、そちらに古いやつを出して、そこに入れると。それで、また撤去すると。あとは、新規に購入する関係で、ある程度弾いて使い込んで慣らしをしないと通常貸出できる状況にできないということもありますので、1か月間をいただいているというような状況でございます。

○委員長 寺田委員。

◆寺田晃 委員 分かりました。いわゆる特設をして、足場を組んで、グランドピアノですからね、理解いたしました。

報告については了承なんですけれども、このグランドピアノの交換というか、買換えということで、私自身、ちょっと気になるところがありまして、実はコロナの始まったあたりですから、もう四、五年前なんですけれども、地域の方でピアノの愛好家というんですかね、同好会みたいな形でピアノ演奏されているグループ、団体さんがいらっしゃって、そのときご要望いただいたのが、ファツィオリのグランドピアノを台東区にもぜひともというお話をいただきまして、当時、たしか江東区の豊洲シビックホールセンターさんか何かに、このファツィオリのグランドピアノが入りまして、イベントというんですかね、あなたもピアニストというような感じで、区民の方が弾けるということで、ご友人から誘われて何か見に行かれたそうなんですけれども、すごい感動されて、グループの方もやはり音色が全然違うらしくて、私、その説明を聞いても、ちょっといろいろ難しいなとは思ったんですが、でもやはり愛好家の方にとって、それ相当のものなんだなというふうに聞かせていただきました。当時の文化振興課長ともお話をさせていただいて、そのグループさんからは、文化芸術の台東区としましてはぜひともというお話をいただいたんですが、グランドピアノはしょっちゅう取り替えられるもんじゃないですし、この買換えという文言に少し気になりまして、決してぜひともというわけというね、そういうお声があるということを課長、知っていただいて、恐らく来年度なんですよ、少し頭の中に入れていただきながら進めていただければと思いますので、これは要望でお願いいたします。

○委員長 要望でよろしいですか。

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

◆寺田晃 委員 以上です。

○委員長 ほかにございませんか。

いや、まだ指していないです。いや、引っ込めたから。よろしいですか。

青柳委員。

◆青柳雅之 委員 先週の土曜日に千束小学校の120周年がありまして、中山晋平先生、経歴を拝見すると、唯一教鞭を執られたのは千束小学校だけなんですね。その後、有名になられていったということで、みんなで校歌も何遍も歌い、非常に印象に残っています。

特にこの奏楽堂では、いろいろな演奏会も含めて、中山晋平先生の展示なども大分ありますよね、その辺りは今までどおり公開していくということでよろしいのでしょうか。

○委員長 文化振興課長。

◎川口卓志 文化振興課長 引き続き、公開はしていきたいと思っております。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 私も学生連れて年に1回か2回行くんですが、あそこの展示のエリアですか、非常にスペースも趣のあって、いい展示の空間だなと思うんですが、なかなか台東区にゆかりのある方が、ここまでゆかりのある方がそこにご縁があるということを知らない人も多いし、ともすると、千束小学校の児童さんや、富士小もですよ、校歌、富士小学校の児童さんも、そういったところに自分のところの校歌を作った先生の展示があるということ、そこ関連づけるのをもう少し頑張ったほうがいいんじゃないかなんて思うんですが、来ているのかな、千束、富士は。行っているか。

（「いや、そこは自分のほうは」と呼ぶ者あり）

◆青柳雅之 委員 分からないか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

◆青柳雅之 委員 それじゃあ要望にしておきます。

ということで、みんな今日、千束小学校、中山晋平づいていますんで、ちょうどいい機会なんで、ぜひこれからうまく連携を取っていただければなというふうに思います。

それと、もう1個はスタインウェイのピアノですね、今、ちょっと寺田さんから、何社って言ったかな、何かね、世界の三大ピアノとか、あと、多分すごい最高峰と言われているのがスタインウェイ社で、これがここに入っているんですね。

ちょっと質問なんですが、あともう1か所、学習センターにも入っているはずなんですよ。奏楽堂のやつは買換えで、学習センターのほうは何かメンテでしのいでいくという方針らしいですが、その辺りの違いをちょっと説明していただけますか。

○委員長 文化振興課長。

◎川口卓志 文化振興課長 まず、大きな違いは、結構グランドピアノの使用状況が全然違うといえますか、年間大体160件から200件近くの年もありますので、プロの演奏家の方が弾き込むということもありまして、スタインウェイ社の方にお伺いすると、やはり筐体自体がもう大

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

分劣化しているという状況があるということでした。ですので、違いがあるとすれば使用頻度等が違うのかなとは思っております。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 今から二十数年前になったと思いますが、生涯学習センターのミレニウムホールを造るときに、そこにピアノを導入する結構議論があったんですね。そこまで金額をかけて、たしか当時の金額で1,000万円超えていたんじゃないかと思うんですが、500万ぐらいだったかな、当時、そこまでの高額なお金のピアノを入れる意味があるのかなのかという議論が随分あったんですよ。ただ、一部の議員さんたちが、それなりのピアノを入れることで、それなりの演奏会が、あるいは、それなりの技術を持った方がそこに来るようになるんだということを力説をされていて、若干金額的にはびっくりするような値段だったんですが、それを入れた結果、ミレニウムホールでもピアノの発表会だけじゃなくて、いろいろな演奏会ができたとか、あとは、ここ奏楽堂もそうですよね、そのスタインウェイ社のピアノがあるということで、それなりの技術を持った方が、かつては、辻井さんでしたか、盲目のピアニストの方の受賞の演奏会などもあそこでやった経緯があったと思うんですが、それだけのピアノがあそこに置いてあるから、それなりのピアニストさんがここで演奏されるようになったというふうに、そんな経緯があるので、今回も買換えということで、ちょっと金額がなかなか張るとは思うんですが、その流れからすると、そのきちんとしたというか、そのスタインウェイ社の判断で今回は買換えということだと思んですが、スタインウェイ社の判断じゃない、スタインウェイ社のアドバイスの上で区が判断したんだと思いますが、これについては了承というか、きちんとやっていていただきたいなというふうに思います。

ただ、その上で、この期間ですよ、もともと奏楽堂にグランドピアノというのはあったのか、その問題にちょっとぶち当たってしまったんです。あそこはパイプオルガンじゃないですか、昔、藝大にあった頃なども、グランドピアノというのは普通に演奏されていた。これだけ大がかりなことをしながら当時の藝大もグランドピアノを入れたり出したりしていたんですかね、1か月間。

○委員長 文化振興課長。

◎川口卓志 文化振興課長 パイプオルガンもやはり奏者、どちらかというオルガン家の方がやるんですけれども、今もそうなんですが、パイプオルガンの奏者、扱える方、レバーとかもいっぱいありますけれども、万人が使える状況ではないというのも正直ありまして、ですので、パイプオルガンだけというのは当然ない状況ですね。ある程度の今と同じ形かどうかは別として、そのグランドピアノはあるような状況ですね。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 分かりました。当時藝大にあった頃も、こういう手法で1か月間かけて、たまにグランドピアノを入れ替えていたのかなと思うと、どうなのかなんていうふうに思ったもんですから、いずれにしろ今の旧奏楽堂、台東区の奏楽堂においては、これだけ中山晋平

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

先生のいろいろな賞も含めて、ピアノというのは非常に重要な楽器になっていますのであれなんですが、やはりちょっと足場も含めて、工事と足場と別々にやらなければいけないのかなとかいろいろな疑問があるんで、その休止期間がちょっと長いのについては、もう一工夫できないのかななんて思うんですが、その辺りいかがですか。

○委員長 文化振興課長。

◎川口卓志 文化振興課長 私としても、極力利用者が使えるように休止期間、短くはしたいと思っておりましてけれども、どうしても今回は塗装の工事と、塗装の工事が終わった段階でピアノを入れ替えるということで、この期間にさせていただいております。

先ほどもちょっと一部触れましたけれども、ピアノも入れてすぐに使っていただけるような状況にならないといえますか、ある程度専門の人が弾き込んで、どうぞという形で使っていただくというような状況もございますので、その期間、ちょっといただきたいなというところで設定させていただいております。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 分かりました。その辺りはプロの世界があるし、あと、今のそのサイクルでいくと、今後少なくとも20年間は今のピアノを使うということですので、その辺はスタートの段階は慎重にしていきたいなというふうに要望しておきます。

そして最後に、ここの中の展示物だけじゃなくて、外にも1個重要な展示物があるんですよ、瀧廉太郎の銅像です。先日、この委員会と決算委員会で申し上げて、台東区には朝倉先生の作品がいろいろなところにあるわけだから、それをもう少し注目したほうがいいんじゃないかということを申し上げたら、早速、奏楽堂のホームページを見たら、台東区内の朝倉文夫先生の作品群のマップができていまして、そこにもありました。私は委員会の中で言わなかったんですが、リバーサイドスポーツセンターの中にも1階に2つありますよね、「水之猛者」という作品と「競技前」という作品だったかな、非常にスポーツにマッチした作品だと思います。

その上で、ここはやはり瀧廉太郎さんって、非常にアイコンとしては強い銅像なんですね。ともすると、音楽の教科書だけじゃなくて、歴史の教科書などへも出ていたりする。ただ、あそこが閉館しているときとか、あと、人によっては入場料を払わないと、あそこも行っちゃいけないのかなみたいな感じがあって、何か入りづらいところにあるんですよ、ちょっと奥まった。何かもう少し見やすくできることってできないんですか。

○委員長 文化振興課長。

◎川口卓志 文化振興課長 確かに外だと完全な状態では見えないといえますか、ちょっとのぞき込めば見れはするんですけれども、見やすい工夫というのはちょっと考えていきたいと思っています。

どうしてもちょっと中には入れないようにしないと、国の重要文化財というのもございますので、そのの壁とかをちょっと今の形状から変えるというのは難しいんですけれども、いろいろ来る人が見られるような工夫ができるかどうかは、ちょっと考えさせていただければと思い

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

ます。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 あの通り自体が藝大さんの彫刻が並んでいる道なんですよ、その通り沿いに実は朝倉文夫先生の有名な瀧廉太郎像があるんだけど、塀の中で、しかも開いているときしか見れなくて、さらには、開いているときもちょっと奥まったところに行かないと誰も見ることができないという状況は非常にもったいないなと思いますので、何か今すぐにやれということではなくて、その活用といいますか、特に音楽と彫刻という、あとは歴史的な文化というのも含めた台東区の財産だと思いますので、ぜひ有効活用をご検討いただければと思います。以上です。

○委員長 ほかにございませんか。いいですか、手を挙げたように見えてしまった。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長 ただいまの報告については、ご了承願います。

○委員長 次に、大河ドラマ「べらぼう」活用推進協議会への支援拡充について、大河ドラマ活用推進担当課長、ご報告願います。

大河ドラマ活用推進担当課長推進課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 それでは、ご説明いたします。

資料2をご覧ください。項番1、目的です。区では、大河ドラマ「べらぼう」の放送を契機として、台東区大河ドラマ「べらぼう」活用推進協議会と共に、まちのにぎわい創出や区内経済のさらなる活性化に取り組んできました。

大河ドラマ館の運営をはじめとした協議会事業も終盤に入っていることから、大河ドラマ館の運営状況等を踏まえた協議会の支援を行うとともに、これまでの成果を生かし、江戸文化の息づく台東区のさらなる魅力発信を図るものです。

項番2、大河ドラマ「べらぼう」活用推進協議会の支援についてです。協議会では、大河ドラマ館等の運営をはじめ、各種取組を展開してきました。これらの取組により、江戸文化の理解促進や区内回遊性の向上などの効果が見られますが、猛暑の影響などにより、大河ドラマ館の入館料収入等は伸び悩んでいます。誘客促進の取組は継続して実施しますが、閉館まで40日を切り、収入の大幅な増加を見込むことは難しく、協議会の支援が必要な状況です。

項番3、今後の取組についてです。協議会では、千束エリアに広がった回遊性の持続のため、新たな立ち寄りスポットとして薦屋重三郎と地域とのつながりなどを掲載した説明板を設置することや、台東区民会館、江戸新吉原耕書堂の装飾の一部を活用することなどについて検討しており、今後関係者と協議を進めていく予定です。

項番4、補正予算額（案）です。協議会への補助金として、6,200万円を計上させていただいております。

項番5、今後の予定です。12月14日にドラマの最終回が放送され、令和8年1月12日には大

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

河ドラマ館等が閉館となります。令和8年1月以降に説明板の製作、設置などを実施していく予定です。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○委員長 ただいまの報告について、ご質問がありましたら、どうぞ。

大浦委員。

◆大浦美鈴 委員 ドラマ館とか、たいとう江戸ものの市のほう、入館料収入、伸び悩んでいるということなんですけれど、大体どのぐらい見込んでいて、幾らぐらい足りなかったんでしょうか。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 入館料収入とお土産館の物販の収入で、2年度通算で1億8,000万ほど見込んでいました。それを差し引いた額を補助金として充てることでやっていたんですけれども、結果的には1億円ほどぐらしか収入の見込みが立たないということで、8,100万円収入が不足しているような状況です。

という状況でして、今日その補正予算に至るまでは、その丸々を区のほうに協議会から要請があったわけではなくて、大河ドラマ館の支出をちょっと見直しをして、その2,200万円の支出をいろいろな広報プロモーションとかをちょっと見直しして縮減を図って、今回の補正予算の要求に至ったというところでございます。

○委員長 大浦委員。

◆大浦美鈴 委員 確かに要素はいろいろとあると思うんですけれど、実際このマイナス面についてというのはどのように検証して、今どのようなお考えでしょうか。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 要因はいろいろあるかと思っております。私たちも目標は高く、入館料調査等、入館の需要予測といいますか、区で調査をした上で目標を設定したわけなんですけれども、まずは大型の観光バスというのが積極的に立地的にも受け入れられなかったのがちょっと地方と違う面というところと、ここに猛暑と書いていますけれども、やはり8月の夏休み期間中はもっともっと来ていただけたと思ったんですが、昨年の2.6倍の猛暑日というのもありましたので、そこもあるのかなと。

1つ、今回特徴的なのが、薦重ゆかりの地、千束エリアをセットとして来ていただく方というのがやはりアンケートから見てとれるんですね。ですので、やはりゆかりの地を歩きたいがために、もうちょっと気候がよくなって来ようとかいうのもあったのかなとは思ってまして、ちょっといろいろな要因があって当初の見込みほどはいかなかったのかなとは思っております。

○委員長 大浦委員。

◆大浦美鈴 委員 内容のほうは理解できる場所もあります。ただ、現状、結構訪れると、随分来客が増えたなって思っていて、何か採算が取れたのかなって期待していただけない、やはり内容がとても気に入りました。すごくいいチャンスでしたので、これを私たちもドラマその

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

後という視察目的で伺っていますので、それも生かして、終わっても、さらにこの話題と人気がつながることを祈っています。それに対して尽力をお願いしたいと思います。以上です。

○委員長 弓矢委員。

◆弓矢潤 委員 ちょっと大浦委員の答弁に重なっているところがあるかもしれないんですけど、この4番の補正予算額6,200万であります、これ、内訳の詳細を教えてくださいませんか。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 先ほど申しました収入不足分と縮減等を差し引いて、入館料収入等の補填で5,900万円、説明板等のレガシー的な事業に充てるために300万円ということで6,200万円となっております。

○委員長 弓矢委員。

◆弓矢潤 委員 承知いたしました。この6,200万って、すごく大きな額だなと思ったんですが、そのうちの大半が賄うというところに費やされているんだなというのが分かりました。

こちらの3番の今後の取組についてのところで、千束エリアに広がった回遊性を持続させるためというところとレガシーというところの、それが今後はすごく大切になると思うんですが、そこへは300万円ほど充てられるというような認識で合っておりますでしょうか。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 今回プラスで300万円充てるということはあるんですが、既存の経費、あとは区のほうでもいろいろとあのエリアに回遊性を持続させるためというのは引き続き取り組んでいきたいとは思っております。

○委員長 弓矢委員。

◆弓矢潤 委員 それはすごく安心しました。300だけだったらどれぐらいできるのかなというところがありましたので。

ただ、そうですね、ここはちょっと要望にもなるんですけど、回遊性の持続と定義するならば、多分相当の努力や工夫が必要であると思いますので、その一つの一例として説明板の設置があると思うんですが、もっともっとやはりしていく必要があるなと思いました。

この間、先月、委員会で視察が行われましたが、いずれも大河ドラマにゆかりがある静岡県は徳川家康、滋賀県は豊臣秀吉という歴史上の大人物をテーマにした地域でありますので、ゆかりのストーリーが明確である分、地域全体で非常にすごく盛り上がっていけるなというような印象がありました。

また、大河ドラマでこのテーマが触れられるたびに再び再熱するということで、この1回だけじゃなく、その都度その都度、いろいろなバリエーションで広げていけるなというのを感じました。

その一方、大河ドラマ「べらぼう」というところで、このテーマが、次いつ触れられるのかなとか、薦屋重三郎がいつ触れられるのかなというところで、その頻度的なものは、そこまで

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

期待できないのかなというちょっと悲観的なものも感じたんですが、一方、台東区、今回テーマが江戸の中期から後期という、大河ドラマとしては比較的珍しい時代設定であります。さらに文化、芸術を正面から扱うこのテーマ性であったり、この蔦屋重三郎という全国的には極めて希有な人物を主役に捉えているというところも非常に魅力的かなというふうに感じております。

ちょっと話が長くなってしまったんですけど、そこで、だからこそ、今後大河ドラマにおいて、この時代、この文化のテーマ、この人物といえば台東区というふうに全国的に認識していただけるような確固たるポジションをつくっていくことがすごく大切になるのかなと感じております。言い換えれば、台東区1択というふうに言っていただけるような万全の体制づくりを今のうちからしっかりと進めていく必要があると考えます。

ちょっと大げさに聞こえるかもしれないんですけど、文化芸術のまちを掲げている台東区にとって、これは一つのレガシー形成につながる重要な契機である思います。なので、一過性に終わることなく永続的に発信する基盤となるよう、引き続き戦略的に取り組んでいただきたいと要望させていただきます。

○委員長 要望でよろしいですか。

◆弓矢潤 委員 要望で大丈夫です。

○委員長 ほかにございませんでしょうか。

寺田委員。

◆寺田晃 委員 同じ会派で関連というのもあれなんですけれども、いわゆる逆転の発想というんですかね、希有だからこそ訴えられる、希有だからこそ全国から、世界からまた来てくれる今回の大河ドラマだったんじゃないかなというふうに感じております。

私も視察に行かせていただいたときに、徳川家康さんとか大人物ではないのに、今回の大河ドラマ館、課長も、もちろん所管の皆さんも本当に頑張ったからこそここまでできたんじゃないかなというふうに、我が会派としましては、やはり高く評価させていただきます。目標にはなかなかいかなかったんですけども、区民館というあの高い場所でドラマ館をやったり、お土産館をやったり、それでもこれだけ来ていただいたんだなって、逆にゆかりの地ウィークとか区民半額とかせっかくやっていただいたのに、もっともっとやはり我々がPRしなければいけなかったんじゃないかなって私自身としては反省しています。もっともっとやはりPRしながら、地方から来ていただけるように努力したかったなって。

視察に行かせていただきながら、今後の取組ということで説明板ですね、回遊性を持てるよというということで、このゆかりの地マップって作っていただいて、18か所、17か所ですかね、回遊できる場所が。そこを巡りしやすいように、それぞれ説明板もインスタ映えするように、次はこちらとか、考えていらっしゃると思うんですけども、少ない予算であれかもしれないんですが、効果的にやっていただきたいと思いますので、要望をお願いいたします。以上です。

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

○委員長 よろしいですね。

そのほか。

青柳委員。

◆青柳雅之 委員 いよいよ来週が最終回になってしまいましたね。もう準備からスタートして、放映が始まって、あっという間の1年間ということになってしまったのかなと思いつつも、視察に行った成果も含めて、これから本当のアフター大河ということで一番大きな仕事になっていくのかなというふうに思っています。

そういう意味では、今までの非常に制約の多いNHKの大河館の中では、多分やりたいことの本当一部しかできなかったんじゃないかなというふうに思っているんですね。そういう意味でいったら、これからが本当に台東区として、このエリアであったり、薦重であったり、浮世絵であったり、そういった文化に本当に台東区らしさを含めて展示や発信ができることになっていくんだと思います。

今回は、その中でもそのスタートラインと言ったら変ですが、この1年間のいろいろな部分の補填と、次の新しいアフター大河に向けた最初の一步なのかなというふうに思っています。ただ、この計上された補正予算の割合を見ると、そのほとんどが後始末のほうで、新たな取組に回す金額があまりにも小さいんじゃないかなというふうに思うんですが、その点はいかがですか、もっとどばっと同額ぐらいいくのかなと思ったんですが。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 今後やっていく取組に関しましては、今の既存いただいている予算の中で当然やっていく予定のものもございますので、ここにある説明板だけではなくて、やっていくことというのは当然、はい。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 私が言いたいのは、期せずして大河ドラマが来るということで、あの時代や、あのエリアに注目が集まりましたけれども、実は台東区のすごい大きな文化的な財産が、埋もれていた財産が発掘されたんじゃないかなと思っているんですよ。ですので、これが大河が終わったら、じゃあNHKさん主導の発信も少なくなるし、しぼんでいってしまうじゃなくて、逆に水を得た魚のように、台東区としてもっともっとこの部分の発信やその部分をやっていくふうにくんだよね、これからね。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 来年度等は、まだ予算、査定の時期ですので、あれなんですけれども、基本的に江戸文化の推進というのは引き続きやっていきたいと思っています。

今回、薦屋重三郎というのを機に、本当に知らない方が多かった人物。そこに携わってきたいろいろな人物というの、関係性があったというの、知らなかったというのもあります。江戸文化、その時期の江戸文化ですね、狂歌だったり浮世絵だったり、いろいろなものが今回も

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

啓発できたと思っておりますし、皆さん、いろいろな方も反応いただいたと思います。小学校等でも授業等、特別授業で扱っていただいて、薦屋重三郎という方がその地域にいたということも全然知らなかったというところもありますので、そういった文化自体の江戸文化の推進という意味では、今後も引き続きやっていくつもりではおります。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 江戸文化って、ちょっとピントをずらされてしまうとあれなんです、台東区の観光の課題って、集中し過ぎている部分があるから、回遊をどうしようかということをやっとやっていたわけじゃないですか。それでいくと、今回は、その回遊という部分も見事にカバーできたわけですね、セットで千束エリアを回る人が出てきたと。ということは、文化・観光、いろいろな意味で非常にいいきっかけづくりができたわけじゃないですか。それを、今この1年間、準備の段階からかけてきた予算と同じぐらいこれからも投入していくことで、要は回遊性だとか、あるいは江戸文化、あるいは吉原文化という部分がやはり今まで以上に輝いていくんじゃないかなって、副区長は多分そう思っていますよ。だから、やはり堂々と予算査定出してその計画をはっきりやらないと、何を遠慮しているんだか分からないですが、この補正予算自体はそれなりの金額ですが、この割合見たら逆でしょと思いますよ、本当に。そのぐらい、お金イコールじゃないですが、それイコールやはり勢いにもつながっていくと思いますので、その辺りはもっとやってほしいなと思います。

それで、例えばですけど、私、当然大河館などに展示されるだろうなと思っていたのは、区が持っている実物ですよ。例えば「吉原細見」などは図書館のほうに実際あるけれども、あれはNHKさんとのいろいろな関わり合いで、劇中で使われたレプリカは展示できるけれど、本物などできなかったんだよね。だから、そういうところもやはりなかなかストレスがたまっただと思うんですが、こういうのをやはり活用すべきだと思うんですよ。あとは、劇中で出ていた「一目千本」とか「青楼美人合姿鏡」でしたっけ、あれなどは、あそこのお土産館でレプリカを売っているんですよ。でもさ、なかなか高額でさ、普通の人は手出せないあれなんだけれど、ああいうのも著作権などはとくに切れているわけですから、やはり台東区の吉原文化の継承として、こういうものを一緒になって発行したり、多分「吉原細見」が、台東区持っているやつなど、結構精巧なレプリカ作れたりすると思うんですね、うちの区として、この1階のショップもありますしね。そういった形で、多分やれることって、すごいいっぱいあるんですよ。あとはその吉原ゾーンをどうするか、これはまちづくりとか全体に関わってくると思うんですが、多分「大吉原展」、藝大でやった、あの頃から、いわゆる吉原文化を何か発信しようとする、やはり若干批判がありますが、それは何でかということ、江戸時代は性産業の部分と文化・流行の発信地という部分が両方あったわけじゃないですか。でも、今のあのエリアには、いわゆる性産業の部分しか結局残っていないから、そこに新たに注目をするという批判が出るんですが、今回のことで、この文化の発信地、あるいは流行の発信地だったということがすごいクローズアップをされて、それに伴ってあのエリアを散策したいとか、見に行きた

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

い、あるいは実物のあった耕書堂の場所を史跡にしようとかいうふうになっているわけですから、このチャンスを逃したら、また単なる性産業だけの街に戻ってしまうじゃないですか。そこをやはりもう少し区としてはやんなければいけない仕事なんじゃないかなと思うんですけど、その点いかがですか。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 私の答弁が伝わりづらくて申し訳ございません。気持ちとしては回遊性向上のために来年度も引き続き取り組んでいく所存でございますので、先ほど委員がおっしゃっていただいた、あちらに江戸文化発信地だったということもございしますので、また訪れていただけるような取組というのは、引き続きやっていく予定でございます。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 何しろ今回の補正予算割合を見ると、あまりにもアフター大河に対する取組の金額が少な過ぎるということだけ申し上げて、新年度にはこのぐらいの規模の予算計上がきっと副区長主導で、部長主導でやられるんだろうと、今うなずいていますからね、間違いないと思いますが、期待をして発言を終わります。

○委員長 よろしいですね。

ほかございませんか。

本目委員。

◆本目さよ 委員 今、青柳委員からは予算をという話だったんですけども、別の視点からも、予算はそんなに要らないんじゃないかなというふうなところはお伝えをしておきたいなというふうに思います。

今回のあの吉原のエリアを、じゃあどういうふうに関遊化させていくとか、「大吉原展」の炎上もありましたし、炎上があったからというよりは、その夜の産業というところとのやはり関係性からすごく難しい、今、青柳委員が文化面は必要なんだというふうに、まあまあ、確かになというふうにちょっと思ってしまったんですけども、ただ、やはり現状として、そういう街である、今、性産業が大きくある街であるという前提を踏まえたりとか、あとは回遊性を高めるというふうに課長からの答弁何度もありましたけれども、じゃあ、そもそもあのエリアに住む人たち、もちろん観光業をしている人たちは来てほしいと思います。ただ、住む人たちは、あの狭い町並みの中を観光客の方がたくさん、谷中も一緒ですよ、あの町並み写真撮られて、自分のうち写真撮られて、嫌なんだけれどもみたいな話は本当によく聞いていました。そういったところも踏まえて、今、浅草とかはオーバーツーリズムの話とかも本当によく出てきている中で、本当にそれでいいんですかみたいなところは、ぜひ台東区として、もちろん観光が大きな産業の一つであることは確かなんですけれども、それに対して本当に行け行けのほうにつき込むのか、それともオーバーツーリズムのほうをメインにするのかみたいなところも含めて、じゃあどうしていったらいいんだろうというところはぜひ考えていただきたい。プラス、吉原というところに関しては、やはりジェンダーのところ、どうしても私自

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

身もどう扱えばいいのか、どうしていけばいいのかというのがなかなか難しいエリアというふうには思っています。そういったところも含めて、ぜひ区内で、庁内のほうとかでもぜひ考えていっていただきたいと、違う意見もあるんだよということを認識だけはしておいていただきたいなと思います。

○委員長　じゃあ、寺田委員。

◆寺田晃　委員　私が子供の頃は、友達があああの街に住んでいて、私も分からないながらに遊びに行ったり、昔の状態もよく知っていますし、今の状態もよく知っていますし、大河の真っ最中の状況も知っていますし、これから大河後というんですかね、あの街が変わってきているの、少し私、感じています。小さい頃から見ておりますので、新しい商売が始まっているところもありますし、私の友人の方もお店を始めた方も知っていますし、もちろん、もともとの街がそういう偏ったって言っちゃあれですけども、ですから、決めつけることはやはりやめたほうがいいと思いますし、予算を大きくつぎ込んで変えていくのもどうかとは思いますが、流れを感じながら、いい方向に進んでいけばいいなということだけ申し上げて終わります。以上です。

○委員長　村上委員。

◆村上浩一郎　委員　台東区北部の選出の議員として、ちょっと1つだけお聞きしたいことがございまして、「べらぼう」の前半で蔦屋重三郎に精神的というか、いろいろなアドバイスをしていた中心的人物が平賀源内がいたと思うんですが、北部に平賀源内の墓所がありまして、先ほど、本目委員から言うところとちょっとおかしい話かもしれませんが、この辺をやはりちょっともう少しクローズアップしていただきながら回遊性を高めていただきたいなというふうに思っております。やはり北部振興のことも観点において、そのことも、私はそう思っているんで、もしお考えがあったら、ちょっと教えていただければと思っていますが。

○委員長　大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志　大河ドラマ活用推進担当課長　平賀源内の墓につきましても、ドラマ館から行くバスですね、循環バスもあの付近に止まるようにあえてしましたし、そういったところを、やはりコアなファンだけではなくて、今回を機に平賀源内が蔦重とあんなに関わりがあったということが知らない方もたくさんいらっしゃいました。どんなことをやったかというのも、いろいろなことやられた方なので、そういった文化のキーとして、引き続き、こういった方のお墓がここにあるというのは継続で啓発等、あとは周回の企画等はやっていきたいと思っております。

○委員長　村上委員。

◆村上浩一郎　委員　分かりました。

せっかくそういう場所があるということを、もう少し区としてもアピールしていただきたいということで、要望だけさせていただいて終わります。

○委員長　その他ございませんか。

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

青柳委員。

◆青柳雅之 委員 やはり委員会だからね、こういう議論が大切だと思うんですよね。本当に本目さん、ありがとうございます。私の中でも整理し切れていない部分があるので、このまま観光地化できるのかなって常に思っていますよ。ただ、私の感覚では、多分今、世界中で昔ながらのこういう性産業のメインとした街とかがどんどんなくなっているんですよね。有名なのがオランダの飾り窓の一带、これニュースで見ましたが、あそこも全部閉鎖になった。かつてはソウルとかにも普通に町なかにいっぱいあったんですけど、それも公娼制度も含めてなくなった。吉原地域も、実は建て替えとかいろいろなものが制限かけられていて、先日の町連会長との会合でも、あそこの震災対策どうするんだという話があって、新築とかができない中で、なかなか難しい課題。ただ、この先、10年、20年、世界的な流れも含めて、あの商売形態が維持されるかということ、そうでもなくなるのかなと思っているんですね。ですので、そうなったときに、文化もない、あるいは、かつての青線のエリアって都内にもいろいろありましたが、その衰退した青線のエリアというのがいまだに一画として残っていて、ちょっと建物とかが興味ある人は、そこを見学したりとかするのもあるんですが、非常に衰退してしまっていますよ。その衰退の道をたどるのかということを考えると、やはり吉原には観光、文化、歴史という切り口がまだ残っているので、今のうちからそうしたビジョンも含めて何かしら手を打っていくことが必要なんじゃないかなというふうにまとめていきたいと思いますが、やはりこの委員会の中でもいろいろな意見を持った方がいますし、特に委員長は、わざわざ今回、アフター大河を設定していただいたので、たくさん発言したいこといっぱいあると思いますので、そういったことも含めて、やはりこれは引き続き、私もその予算増額というのを勢いつけて言いましたが、もちろんそれだけじゃないですよ、中身ですよ、あるいはビジョンですよ、その部分をしっかり固めていただくのは上野部長、得意だと思いますので、そうしたビジョンを明確に出していただいた上で、それに見合った予算をきちんとつけていくということで、回遊性、文化、あるいは将来どうするかということに期待をしていきたいなと思いますし、引き続き議論したいなと思います。

○委員長 ほかよろしいでしょうか。

石川委員。

◆石川義弘 委員 委員なんでちょっと話させてもらいます。

大分もう私も議員になってから長くなりましたんで、実は吉原の中で花魁道中を歩かせようという話が私が議員になった頃ありました。大げんかの末、実は警察から反対されて中止になりました。当時は吉原の中を、性風俗の人たちがメインでいるのに、何でこの道を人を集めなければいけないんだって、これは集める必要がないということで警察が判断をして、これをやらせないということで中止になりました。

今回のことで予算も多額に使って、実は思ったより人が来なかった。その中で、実は一番残ったのが、やっと吉原の中が歴史になってきたのかなというふうに思っています。あと、性風

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

俗だとかそういう考えじゃなくて、歴史の中の一つとして話していくようなことになってくるのかなというふうに思い出してきています。それと一緒に、実は吉原の中が相当性風俗のお店が潰れてきています。建て替えできない、それから火災の問題、この辺が相当ありますんで、大分駐車場が増えてきているということで、ある程度やはり自然淘汰されてくる時期に入ってきてんのかなというふうに考えています。

その中では、やはり先ほど青柳委員が言ったように、どういうビジョンを立てていくのか、せっかくここまではお金を使っていますので、どういうビジョンを立てて、あそこをどうしていくのかというのは、もう少ししっかり方向性が出てきてほしいなというふうには思っています。

本目委員にはちょっと違うんですが、実は玉の井のところに鳩の街という赤線がありました。ここんところを今実は通りにみんなプラグを立てています。鳩の街って書いてあるのかずっと並んでいるんですよ。これ、鳩の街という名前を知っている人たちにとったら、こんなものあり得ない。ところが、知らない人たちにとってみたら、かわいい街の名前だよなという感じになっています。これがいつ千束で起こってくるのかなというのを非常に私は感じています。そうじゃなくても、吉原の地名はありません。千束三、四丁目になってしまっています。吉原という街がちゃんと名前として言える、あるいは、それが歴史として認識されるという状態にここはなるべく早く持って行ってほしいなというふうに思っています。

青柳委員とか皆様分かっているとおり、文化にとっても江戸文化にとっても大事な街であることは間違いないんで、吉原自体がちゃんと博物館じゃないけれど、そういうものがみんなが安心して建てられるように早く持って行っていただけるといいなというふうに思っていますので、もう江戸時代からの問題ですから、いろいろ問題があるのは分かっているところで、どうしていくのかしっかり考えてやって行っていただきたいなというふうに思います。重い課題だとは思いますが、しっかりよろしくお願いします。要望しておきます。

○委員長 ほかがございませんか。

伊藤副委員長。

◆伊藤延子 副委員長 今、いろいろやはり江戸文化の歴史とか、すごく話聞いている勉強になったなという印象はあるんですけど、やはりこの大きな目的の回遊性とか、そういうところでは、本当に浅草北部は随分少なかったんですけど、バスが届いたりとか、届くというかな、連れてきてくださったりして、ちょっとは増えたかなって。だから、平賀源内の、先ほどおっしゃった分からないという人、すごく多いんですよ、平賀源内のどこにあるのって、私たちがよくご案内するんですけど、だから、今回少し知れたのかなと。だけれど、やはり少ないと。地域の人たちは、そんなに言っても一つも来ないじゃないかというのが浅草北部の人たちですけど、千束辺りの人たちは随分増えてきたねという、そういう印象であるということが大きいところで一つあります。

それでお聞きしたいんですけど、この前、このドラマ館、10万人突破だということで、前

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

回のとき報告されましたよね。今回、今現時点ではどれぐらいの方がおいでになっているんでしょうか。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 ドラマ館の数でございますけれども、昨日時点で15万4,000人の方がお見えになっております。

○委員長 伊藤副委員長。

◆伊藤延子 副委員長 非常に猛暑もありということで少ないということと、あと1か月でどれぐらい、あと1か月じゃないですかね、でどれぐらいかということもありましたけれども、先ほどの蔦屋重三郎のなかなか名前も分からなかったけれど、この江戸の文化とか歴史をつくる中では大きな役割を、大きな役割というのかな、果たした人なのかなみたいなところもあったということですけど、こういうことも含めて、あまり区民の皆さん、知らないのかなと思うんですけど、ただ、その15万4,000人の中で台東区民はどれぐらいおいでに、分からないんですよね、台東区民かよその地域の方とあって、あまり分からないんですか。

○委員長 大河ドラマ活用推進担当課長。

◎川口卓志 大河ドラマ活用推進担当課長 区民かどうかというところのお尋ねはしておりませんので、それは分からないんですけども、アンケートの集計結果で台東区民の割合は大体5%ぐらいです。アンケートの回答者の中でですけども、あくまで回答者の割合です。

○委員長 伊藤副委員長。

◆伊藤延子 副委員長 そうですね、そういうことで、実はやはり区民の方たちがドラマ館を見ていない、あと視聴率とかどれぐらいかちょっと分からないというか、あれなんですけれど、そういうことも含めると、区民の方の周知とかアピールとか少ないのかなと思うと、一方で、あそこの区民会館ですよ、ホールとか大々的にあそこ、使ったので、この1年間でのどれぐらいの方、昨年ですかね、昨年1年間でどれぐらいの方があそこを活用していたか、あのホールとか、ていうか9階ですね。それね、ちょっと出してもらったら、1年間でトータルで15万8,000人の方が、要するに何か集会だったり何かで使っているということなんですね。月々での平均というか、会議数のを見ると結構な数で、ホールのほうは850、これは組というのかな、の方、それで一般のほうは883組の方というのかな、こういう方たちが使っているということもあるという、こういう方たちがその会場とかをちょっとあまり使えないで、半分ぐらいの方は結局ドラマ館があるために使えなかったということもあるのかなとか思うので、そういう意味でこれらの効果というですかね、それらはちょっと少し検証もしてもいいのかなというのを思ったので、これだけはちょっとお話ししておこうかなと思いました。

あと、先ほどの本目委員からも出された問題というのかな、やはり歴史として確かにあるし、歴史をどういう形で見るのかとかすごく大事なことで、重い課題だということもありますけれども、石川議長のほうからも、これらが歴史としてこういうことだったみたいになるのかどうかとか、ですけど、やはり人権の問題とかも含めて、地域全体もそれらに対してどう考える

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

のかとか、そういうところなども今非常に危惧、危惧というかな、私自身が考えなければいけないのかなというのをすごく感じるんです。

ちょっと長くてごめんなさい、前によく国外に旅行など行くときに、私が一番ちょっと嫌だったなと思ったのは、そういう性風俗の、わざわざ観光バスの中で案内をされたことがあって、物すごく嫌な気分になって、私たちはそんな目的で来ていませんから、そういうのはやめてくださいって抗議したことがあったんですよ、バスガイドさんにね。だけれど、日本はそういうことは今は実際はありません、ありませんというか、ないかとは思いますが、要するにそれらを肯定というんですかね、ありきというのか、そういう形のものなどは社会全体で考えていく、ここの観光課で考えるということではないし、ないしというのかな、ですけれども、考えていく必要があるのかなというのをちょっと思ったところです。

議長さんのほうから言われた、これらが歴史として小さくというか、なっていくことというのは本当に要望されることかなというふうに感じました。以上です。まともななくてすみません。まだまだある。

○委員長 よろしいですか。

青柳委員。

◆青柳雅之 委員 なかなか面白い議論になってきたので、先ほど、じゃあ性産業をどうするか、それ、人権の話も出ました。確かに人身売買だとか望まない就労をしています、その一方で、世界的はセックスワーカーという人たちの人権ということもあるわけですね。そこでプライドを持って働いている人たちも中にはいらっしゃいます。オランダのアムステルダムの方も先ほど出ましたが、そこは市長さんも含めてセックスワーカーの皆さんの人権をどうするかということで、有名な飾り窓の一面は閉鎖に向かいましたが、その代替地をしっかりと用意するというようなことになっているんですね。これ、女性だけではなくて、男性のセックスワーカーもいらっしゃるわけですが、そこだけを何か敵視をして問題だという議論だけだと、これ進まないの、その辺も含めたビジョンをやはり出さないと、一方的な見方で悪所というだけのことではないのかなというふうに一応申し上げておきます。

世界的にいろいろなゾーンがなくなっていますが、じゃあその分、性産業がアンダーグラウンド化しているということも、この間もNHK特集でやっていました。あるいは、低年齢化というんですか、いうのも取締りが非常に難しくなっていると。ネットとかSNSを使って個人的にご商売をされるということが非常に取り締まりしづらくなっているということも含めると、ここの議論は台東区だけの議論でなくて、もう少し国や世界レベルの議論になってくるのかなと思いますので……

○委員長 そろそろまとめてください。

◆青柳雅之 委員 ぜひ委員長の意見も伺いたいと思います。

○委員長 すみません、ほかよろしいですか。

(発言する者なし)

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

○委員長 大変有意義な議論ではあると思うんですけども、あくまで活用推進協議会の支援の拡充についてなので、性産業の在り方とかいう話が今回議論ではないので、ただ、すごく重要な議論だと思います。

最後、委員長としてちょっとまとめさせていただきますが、いろいろな考え方あると思います、本当にセンシティブな街だと思いますので。ただ、それをどうしていくかということを考える契機には、この大河ドラマ「べらぼう」はなったのかなというふうには思っております。それだけに、ちょっと入場者数とか、あと広報の部分とかいうのは若干残念な部分はあったかなと、そこはちょっとしっかりと振り返っていただいて、今後のまた、このあったきっかけをどう生かすのかというところには、文化面、観光面だけではなく、区議会ですので、それこそこの委員会の所管ではありませんが、まちづくりにどう生かしていくのか、そういったところを見直すいい一つの契機だったと思いますので、そこはしっかりと見据えて、今後の文化振興、あるいは観光、そういったところに生かしていただければ、生かすかどうかの否かも含めて、そこを吉原という特殊ないろいろ賛否ある、議論ある地域においてどういうふうに見詰めていくかというのをしっかりと検討していただければなということで取りまとめさせていただきます。ただいまの報告については、ご了承願います。

○委員長 次に、訪日外国人観光客を対象とした商品マーケティング調査について、観光課長、報告願います。

観光課長。

◎横倉亨 観光課長 それでは、資料3をご覧ください。項番1、インバウンド市場・観光市場が学べるセミナー・交流イベントの実施です。

商品マーケティング調査に先立ちまして、区内中小企業者を対象に、インバウンド市場・観光市場を学べるセミナー、交流イベントを実施いたしました。

名称は観光×産業交流E X P Oで、日時と会場は記載のとおりです。参加者は約80事業者で、およそ130名の参加がございました。内容は、セミナー、区内事業者の商品展示、名刺交換会、補助金相談会です。共催は、公益財団法人東京観光財団と台東区産業振興事業団です。

セミナーの内容については、記載のとおりです。

内容の一部といたしましては、観光統計マーケティング調査なども活用いたしまして、インバウンドの最新動向についても説明したほか、区内製造業者、宿泊事業者などにも登壇いただき、観光と産業の観点から、各社が行う最新の取組事例を共有いたしました。また、会場内には区内32社の商品展示を実施し、ものづくりに取り組む区内の中小事業者と宿泊事業者、旅行会社、百貨店等との関係づくりの後押しを行いました。およそ3時間という短時間ですが、多くのセミナーを実施し、名刺交換や展示品紹介などの交流を行い、充実したセミナー、交流イベントとなりました。

恐れ入ります、裏面、次のページをご覧ください。項番2、訪日外国人観光客を対象とした

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

商品マーケティング調査です。

(1) 実施概要です。本区を訪れる訪日外国人観光客の消費嗜好を把握することで、マーケティングデータの充実を図ります。また、収集したデータは、区内中小事業者の商品開発などに役立てていただくとともに、今後の観光振興施策に活用いたします。

調査の日程は記載のとおりで、場所は浅草文化観光センター7階、調査数は約1,600サンプルで、調査項目としては、各社ごとに異なる定性調査で実施しました。

調査の項目決定に際しては、産業振興事業団、中小企業診断士同席の下、全社に対して意見交換会を実施しました。その中で各社の意向を踏まえ、価格、デザイン、商品の背景、SDGsに対する意識等、各社が希望する調査項目を選定いたしました。各社内容が異なる調査表を、英語、韓国語、中国語で作成した上で、調査員により、各商品5から6問のヒアリングを実施いたしました。

(2) 参加事業者は14社でございます。調査商品につきましては記載のとおりで、様々なジャンルの商品の参加がございました。

(3) 今後の予定でございます。参加した14社に対しては、レポート形式での調査報告書を提供いたします。また、来年の2月には、区内事業者を対象としたオンラインセミナーを実施予定です。本セミナーを通じまして、広く区内事業者に知見の共有を図るとともに、産業振興事業団にも情報共有することで、経営相談などにも活用してまいります。

また、蓄積したデータに関しては、海外プロモーション等に活用することにより、旅行の計画段階から本区での観光消費を促していきます。

報告は以上となります。

○委員長 ただいまの報告について、ご質問がありましたら、どうぞ。

弓矢委員。

◆弓矢潤 委員 2ページの項番2のほうになるんですが、訪日外国人観光客を対象とした商品マーケティング調査についての、この(1)番の実施概要のところで、今回、約1,600ものサンプルを対象に調査を行ったとのことですが、このサンプルの国籍割合で、例えばどの国、地域の訪問者が多かったのか、また、逆に少なかったかなど、その辺り、詳細分かる範囲で教えていただけますでしょうか。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 調査数、約1,600サンプルという形で、1,600人という形で捉えていただいて結構なんですけれども、ちょっと大ざっぱな統計で申し訳ありませんが、欧米豪と呼ばれる方ですね、欧州、アメリカないし豪州、カナダも含めですけれども、そちらの方が約1,000という形のサンプル数です。次は、東アジア、こちら韓国、中国、台湾、香港を中心の方たちですけれども、400という形でございます。あとは、最後、東南アジアという区分けしてございます。タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン等、そちらは約200という形での調査数となっております。

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

○委員長 弓矢委員。

◆弓矢潤 委員 詳細が分かりました。

観光市場は国籍ごとに、国ごとに何か嗜好が大きく異なる可能性があるというところで、その調査結果の解釈であったり今後の分析においても、国別の構成というのは極めて重要になると思ったので、ちょっとこれ質問させていただきました。

ちょっとこれ、続くんですが、この3番の今後の予定のところ、参加事業者に対してはレポート形式の調査報告書を提出されとのことですが、現時点ではこれから作成される段階になると思います。

そこで、どのような内容構成を想定しているのか、ちょっとイメージでも構いませんので、お伺いします。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 当然各社質問が違いますので、その回答ですね、そういった分析等を行って回答する形になるかと思います。

また、こちらの調査の会社には、各社のSNSで流している情報というのを、各社、当然海外向けに流しているかと思うんですけども、その状況もちょっと添削ですとか、そういったのをやってございます。こういった情報を今流しているけれども、ちょっとどうなのかなというところでの、そのいろいろとご意見等もつけたりするということで、そういった形で調査報告書、まだ私もちょっと見てはないですけど、手元にはないんですけども、当然ながらそういった質問した内容の回答ですとか、今後の方針、今後の方向性というのも少しアドバイスできるような調査報告書になっているのかなというふうに考えてございます。

○委員長 弓矢委員。

◆弓矢潤 委員 実際、本当に具体的にどういうものになるかというのは、今のお話だったら、それぞれの項目も様々であるし、まだ具体的にはなっていないのかなというところまでは分かりました。

その上で、これは私が参加事業者であった場合、こういうデータがあったらうれしいなというところもちょっとあったので、要望というところにもなるんですが、ちょっとお話しさせていただきます。

例えば、この自社が出している商品に対してどんな評価がされているのかなというところで、今回、約1,600のサンプルってあったところで、そっか、先ほどのところ、欧米が1,000というところ上げると、約半分近くが欧米であるというところがあって、あと東アジアが400、東南アジアが200というふうになっておりますが、欧米で評価が例えば100点中30点ぐらいだとすると、でも東南アジアや東アジアでは100点に近いというふうに評価があったとしても、欧米の数がやはりそれだけ半分ぐらいいいと思いますので、平均点を取ってしまうと半分ぐらいに、50点ぐらいになるかなというふうに思います。それだけ見た業者の方は、この商品は評価が低いから、商品化を見送ろうという判断をしてしまう可能性もあるのかなと思って、しかし、国別

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

で分かれていたら、欧米はすごく低いけれど、それ以外はほぼ満点の評価をしていただいているというふうになれば、あっ、これはもしかして欧米が低い理由は、文化的や価格感覚的な理由があるからなのかとか、あと、自社は東アジアや東南アジア向けの商品を中心に扱っているので、それだったら商品化を急ごうとか、そういう判断を下せるのかなというふうに思いました。

つまり、ちょっと長くなってしまったんですけど、国別の数の隔たりを把握して、平均値に惑わされないような正確な情報があるとすごく助かるなと思いましたので、そのため、調査報告書を作成する際には、国別、地域別の分析を丁寧に行って、事業者が実際のビジネス判断に活用できる内容としていただけるように要望させていただきます。

○委員長 要望でよろしいですか。

◆弓矢潤 委員 そうですね、分かりやすい何か表などがあればいいのかなというところも付け加えさせていただきます。以上です。

○委員長 よろしいですか。

◆弓矢潤 委員 はい。

○委員長 ほか。

富永委員。

◆富永龍司 委員 すみません、先ほど、このセミナー、3時間という僅かな時間でという説明がありました。でも、セミナーとして3時間って、意外とうちの区としては長いなとは思っていますが、ただ、内容をこれ見ると大分盛り盛りで、6個ぐらいのタイトルつけてやっていらっしゃるって、それを逆に言うと僅かに感じてしまう、ちょっとどうなのかなという、本当にいいセミナーをやっているんですが、この時間の中でちょっと詰め込み過ぎたのかなという嫌いはあるんですけど、その辺、ちょっと現場に行っていないんで、どうですかね。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 こちらのセミナーですね、出入り自由という形もありまして、セミナー、ここは聞きたくない、聞きたくないといいますが、ここは興味ないところは違うところと、違う展示を見ているですとか、商談をしているとかいうのもございました。

セミナー自体は20分から30分ぐらいで切り分けて、その後、例えば観光財団ですとか、こういったシステム開発会社と書いてはございますけれども、隣にちょっとしたブースを設けて、個別で相談したい方はそちらに行っていただいたという取組もしていますので、やはり二、三十分ではなかなか深いことはしゃべれませんので、どうしても気になる方は、また個別相談でしたり、そういったちょっとしたブースで相談したというふうになってございます。

委員ご指摘のとおり、ちょっと張り切り過ぎて、いろいろ詰め込み過ぎたというのは名前から含めてもございますけれども、比較的半日という形で、いろいろな方たちに情報共有できたかなというふうには評価してございます。

○委員長 富永委員。

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

◆富永龍司 委員 分かりました。

根本的なこと聞いていいですかね、これ見ていて、何で観光課なのという、シンプルに何で産業振興課じゃないのという、この辺のすみ分け、これずっと結構言っているんですよ。だから、観光を産業としていうと、産業課じゃなくて観光課なのか、ここのうちのすみ分け。

だから、今日も結局これ、事業団がかんでいるけれど、この委員会だから振興事業団は来ていないよね、参加していないんだよね、この辺って、この辺の事業の今後のすみ分けってどう考えるのか。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 今回、こういった、ちょっと交流イベントというのは少し大きな、本当は、本来だったらちょっと事前にセミナー程度という形で考えていたんですけども、せっかく集めるんでしたらということで、産業振興事業団ですと産業課さん巻き込んで少し大きなこういう形でさせていただいたんですけども、実際予算要求のときは、2番のほうのマーケティング調査のほうで今回お金を大きく頂いたということで、こちらのほうは観光課、観光庁でも観光消費の調査ですとかそういったのは観光庁の所管でやって、インバウンド向けの観光消費というのはやっているところ、ございますので、それ向けのマーケティング調査という形で観光課で中心に仕切らせていただいたということでございます。ただ、両方とも産業振興課及び産業振興事業団、両職員の方たちのすぐくご協力をいただきまして、本当に3課でやったという形では認識してございます。

○委員長 富永委員。

◆富永龍司 委員 一緒にやっているということは、それはよく分かる。本当にだからそこがね、うちでずっと言っていて、一体環境産業ってどこ担当すんのというのがずっと昔からはつきりしないよねと。産業振興課としては商店街振興が重きに置いているんで、あと企業かね、となっているんで、この観光の産業ってどこに行ってしまうのかって、いつも何回か質問しながらも、どこが担当するのかなっていつも思っていましたんで、そこは本当に今後も連携してしっかりやっていただきたいことをお願いして。

あと、本当に先ほどちょっとオーバーツーリズムかな、という話も出ましたけれど、浅草の真ん中でやっている、あまりオーバーツーリズムは実は感じていないです。観光というのが、確かに台東区でどこまで広がっているのか。やはり住宅地、よく京都など、先ほど言った、ミソが谷中の自宅の撮影ですね、こういうふうに話になっていくと、やはりちょっと違うのかなと要は思います。本当に今、来て来てって言われて、今多くいますって言われているですけど、本当に昔で考えりゃ、段ボールで寝ている人がたくさん世の中いてね、私など家出るときに、子供の頃、その人をまたいで出ていくわけですよ、出れないから、うちの前に寝ていて。起こさないように、そうっとまたいで、触れないように家を出ていくという経験を何度もして、もうあんなことを子供たち、孫たちにはさせたくない思いなんです。だから、今、本当にある程度、夜もにぎやかになってありがたいなと思っているんで、本当にこういったセミ

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

ナー、しっかりやっていただいて、今後も進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたしますします。

○委員長 ほか。

本目委員。

◆本目さよ 委員 簡単に、セミナーや交流イベントについては、大変意義のある取組かなというふうに感じています。

一方で、今、富永委員が言っていたように、産業なのか観光なのかみたいなところと、あと商品マーケティング調査については、ちょっと確認させていただきたいんですけども、これ何か言わば企業ごとの固有のマーケティング調査ではないかというふうに理解しているんですけども、総額、お金どれぐらいかかったんでしょうか。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 こちらのマーケティング調査の契約額ですが、544万5,000円と税込みでなっております。

○委員長 本目委員。

◆本目さよ 委員 600万弱ということかなと思いますが、そうすると、単純計算で1社当たり40万ぐらいの支援かなというふうに認識しています。

インバウンドの動向把握は観光課の重要な役割である一方で、ここまで個別企業、個別商品の調査を区で実施することが、どの程度まで公益に資するのか整理が必要なんじゃないかなというふうに感じています。

参加企業にはレポート提出を行うということですが、あと産業振興事業団にも共有して、きっとアドバイスをするのかなと思うんですけども、ただ、何か区で多分全額出してやったもののなのに、狭いんじゃないかなって思うんですね。ぜひ区として得られた知見は広く区内事業者、産業振興事業団経由だけではなくって、じゃあどういうふうに、必要とする区内の事業者にはせめて、全世界にオープンにしろとはもちろん言わないですけども、そのところにはぜひ還元してほしいのと、内容によっては統計的に加工した上でオープンデータ化する、でもオープンデータ化すると全世界で見れてしまうので難しいとは思うんですけども、でも、ぜひ区全体の産業振興とか観光施策だったりとか、さらに区内事業者も、例えば似たような商品を扱っていたら多分参考になると思うんですよ。1社だけはそれが受けられて、ほかの事業者は受けられないって、同じことで、そんな機会知らなかったよという事業者がいたら、それはちょっと公平性に欠けるんじゃないかなというふうに思うので、区全体の観光マーケティングと個別企業支援との役割分担、ぜひ明確にしながら、公益性、最大化する形で展開をお願いしたいと思います。

○委員長 よろしいですか。

寺田委員。

◆寺田晃 委員 まず、確認をさせていただきたいのが、インバウンド市場の学べるセミナー

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

のほうで、参加者が80事業者、130名ということなんですが、商店街さん、近隣、広域含めてご案内されたかということと、あと、もし参加されたのかなという、なかなか確認が難しいかもしれないので、どの程度把握されていますか。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 こちらのほう、当然いろいろと我々も初めての企画だったもので、どれだけ集まるかというのは、ちょっとなかなか不安要素はございましたので、LINEですとかメルマガ、ホームページ、SNS、あと事業団ですとかですか、あと広報たいとうですとか、あと商店街の方たちも当然メールですとかチラシ配布とか、そういうのをお願いいたしまして、いろいろなところにお声がけさせていただいて、まずやってみたという形になってございます。

その上で、今ちょっと我々のほうも全員一応130名の方、リストは作っているんですけども、商店街の方、浅草の方ですね、お花屋敷通りの方はちょっといらっしゃっていたということだけは確認していますけれども、そういった方たちにもいらしていただいたというふうには確認しているところでございます。

○委員長 寺田委員。

◆寺田晃 委員 セミナータイトルや講師の方を見ますと、本当に6講座、充実してやっていただいたんだなって。私ももし、1日は多分東京にいなかったと思うんですけども、視察か何かでいなかったと思うんですけども、本当に参加したいような、勉強させていただきたい内容で、いい内容でやっていただいたと思います。

今回、2番目にマーケティング調査を報告していただいているんですが、先ほど来お話があったように、やはり両方とも最終目的は、一番最後の行にあるように観光消費を増やしていくというか、推進していく。本目委員さんもおっしゃったように、やはり区内の事業者さんが、今回の1番目、2番目を踏まえて、マーケティング調査も踏まえて、来街者の方、観光客の方がやはりお買い求めいただきながらにぎわいを推進していく目的があってやっていただいていると思うんですけども、このマーケティング調査では14社の方が参加していただいたんですが、そのサンプルを分析中ということで、来年の2月にはオンラインセミナーをやっていたくということも期待しているところなんですけれども、なので、商店街の近隣の商店街さんも踏まえて、こちらのほうもどんどんPRしていただいて見ていただければなというふうに感じております。

ここ数年来、来街者が増える中、やはり台東区の大きな弱点というか、せっかくいらっしゃっているのにお金を落としていただけないというか。じゃなくて、こういったものを通しながら、お買い求めいただける商品をどんどん開発しながら、またSNSの発信の仕方も勉強しながら、にぎわい創出につなげていっていただきたいなというふうに感じております。

2月のオンラインセミナーも、可能であれば一緒にオンライン聞かせていただきながら勉強させていただきますので、よろしくお願いいたします。どんどん進めていっていただきたいと思います。

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

戻りますけれども、交流イベントは、たしかゼロ事業ということでやっていただいたと思うんですけども、これ何でゼロ事業で行えたんですかね。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 ゼロではないんですけど、ほぼ数万円ぐらいな講師謝礼程度と、あと消耗品程度で行われた事業という形で、基本的には、例えば中小企業診断士の方は事業団の方が派遣されたりですとか、あと当然ながら東京都の方たちは当然無料と。あと、区内製造事業者だとか宿泊事業者の方たちも、ぜひお話してくださいという形で自分たちの知見をご披露いただいたということで、ほとんどの方たちにそういったお金を支払うことなくできた事業というふうに考えてございます。

○委員長 寺田委員。

◆寺田晃 委員 今回、課長からこの報告書を事前に聞かせていただいたときに、調査報告書をぜひとも見たいなと思ったんですけども、個人情報とかお店の情報もありますので、なかなかなんですけれども、あわせて、本目委員がおっしゃったようにオープンデータ、なかなか難しい部分もあるんですけども、伏せなければいけない部分は伏せていただきながら、オープンできるものはオープンにさせていただいて、区内の事業者さんに活用していただきながら推進していただければと思いますので、これは要望をお願いいたします。以上です。

○委員長 よろしいですか。

ほかございませんか。

青柳委員。

◆青柳雅之 委員 ありがとうございます。

前半の部分は、富永委員からもいろいろありましたけれども、事業団はほら、代表というか理事いるから、答弁は上野さんに聞けば何でも聞けますよね。

○委員長 いえいえ、答弁者、こちらで指定しますんで。

◆青柳雅之 委員 ああそうか。今、事業団来ていないって言うけれど、来ているから、担当課長はいないだけでね。野村副区長も増えたしね。

ということで、私は後半行きますね。マーケティング調査、今日いろいろ意見が出たんで、非常に充実した委員会になっていると思いますが、やはり、私ここの文化観光センターできて、もう12年、13年たちますが、あの上の使い方って非常にいろいろ試行錯誤したけれど、ある意味こうしたマーケティング調査とかモニタリングとか、あとは最近では、必ずインバウンドの人たちのインタビューなどを浅草でやっていますが、ああいう撮影とかインタビューを撮るとか、そういうニーズって実はすごいあって、これこそ何かの展示をするよりかは、こうした使い道というのは観光センターらしいんじゃないかなというふうに思うので、あの場所をこうしたモニタリングルームとかマーケティング調査のスペースに使っていくというのはいいアイデアだなと思います。

ただ、今回は、この区内の特定の事業者に対する個別のマーケティング調査となってしまっ

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

たこと自体は、幾つもある調査の中の一つだったらいけれども、やはり皆さんおっしゃるとおり、このじゃあ浅草に来るインバウンドの観光客自体の趣味とか嗜好とか、あるいは国、エリア別の嗜好とか、そういったものを観光課として、あるいは区としてキャッチする場所にこの先はやはりしていくと非常に発展があるし、あとは、まるで逆転の発想としては、民間業者さんもお金を払ってでもこうしたデータを取りたいというのがあって、最近では、たまにコンビニとか行くと、5分ぐらいのアンケートするだけで1,000円のQ U Oカードをくれたりとか、そういうのもやっけていまして、そのマーケティング取るためのそのものの個別の業者にタイアップしたり連携したりしながらこのスペースを有効に活用するとか、いろいろなアイデアができるんじゃないかなというふうに思っていますので、発展としては期待しています。

それと、やはり今一番の話題は、中国の観光客の動向がこれからどうなるかということだと思うんですね。これは7年の11月の初旬ですから、そこまでの影響は出ていない時期だったと思うんですが、最近のニュースとかを見ていると明確で、中国の観光客が減って困ったよというニュースのときは、京都とか、あとは静岡周辺の中国観光客に依存度が高いところ。逆に浅草では、中国の観光客、何かちょっと減っている気はするけれど、全体としてはそんなに影響ないよねというインタビューは大体浅草なんです。それでいくと、浅草というか、台東区の観光客は本当に多国籍化が進んでいて、ある意味1つの国の需要が大幅に減ったからといって、何か観光全体に与えるダメージというのはそんなに大きくないことになっているんじゃないかなというふうに思うんですが、その辺りいかがでしょうか。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 中国の方たちが、今そういった状況だということは認識してございます。令和6年、台東区の国別の大体の割合でいきますと、中華人民共和国は15%程度という形、香港を含めるともう少しきますけれども、20%以上きますけれども、そういったような状況です。比較的バランスよく台東区に訪れているのかなと思います。

とはいっても、街の方からお話を聞くと、やはり少し減ったという話も聞いてございますので、若干影響といいますか、少し少なくなったかなという方もいらっしゃいますので、その辺りは今後、いろいろとまた話を聞いていきたいなというふうに考えてございます。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 分かりました。

データいろいろあって、少し前のデータでいくと、銀座とか秋葉原は中国の観光客が大体30%だった、浅草のその時代は15とか10だったんで、中国本土からの観光客のウエートが非常に低いというのが一つ浅草の特徴でもあった時期がありました。

ということで、この問題もこれから長引くかも分かりませんが、注視していかなければいけない課題だなというふうに思っています。

その上で、今回、マーケティング調査ね、中国語の繁体字と簡体字ありますよね、これである意味今回課題になっている部分の明確な違いが出ると思うんですよ。要は繁体字というのは、

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

昔ながらの難しい漢字を使っているエリアで、台湾、香港、マカオとかなんですね。それでこの簡体字というのは、大幅に省略された中国語で、日本の人たちでもなかなか見つらいぐらいの省略された漢字で、これが主に中国本土の人たちなんです。そうすると、この11月の段階では、このウエートというのはそんなに変わらなかったですか。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 すみません、まだ具体的にそこまでしっかりとした区分け、繁体字、簡体字のところは取っていませんので、まだレポート上がってきていませんので、その辺り、また分かり次第、もしお話しできたらと思いますけれども、今のところまだ、すみません、そこまで、東南アジアという形でのくくりで今のところ取っておりますので、当然簡体字・繁体字、分かりますので、今のところちょっとすみません、私のところまで上がってきていないので、申し訳ございません、今精査中でございます。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 その国とかエリアとか東アジアの分類はできているけれど、だってこれ、言語だよ、英語何%、韓国語何%、中国の簡体、繁体何%というのは一番最初に出るんじゃないの、出ないんだ。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 すみません、委託期間を含めて、まだ期間途中のところもございまして、完全なデータが全部そろっているわけではないので、すみません、ちょっと今のところでは、答弁はすみません、申し訳ございませんが、まだ精査中という形での答弁とさせていただきます。

○委員長 青柳委員。

◆青柳雅之 委員 分かりました。

今、いろいろなところで、逆にこの時期に日本に来ている中国の観光客の方が、中国本土から来たというとあれだから、台湾だというふうに言ったりとか、あと台湾のパスポートのカバーがすごい中国で売っていたりとかいう話も聞くので、逆に字の違いで一つの動向はちょっと見れていくんじゃないかなというふうに思いましたので、そのことも含めていろいろな調査、データをしっかりまず取っていくことが大事なのかなというふうに思います。以上です。

○委員長 ほかがございませんか。

石川委員。

◆石川義弘 委員 どこまで広げてしまっていていいか分からないんだけど、ちょっとマーケティングで心配していることがあるのね。実は老舗のお店が全然売れないんだそうですよ、飲食のところも含めて。大分売上げきつって言われてんですが、ちょっと外国人もそうなんですが、日本人の動向、非常に気になっているんですよ。これだけ来いても売上げ下がってしまって、前年比どんどん下がってってしまうというんで、やはりインバウンドもそうですが、日本人の動向も少し調べることも気にしておいていただければなというふうに思います。

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

特に昔からある有名なお菓子屋さんなど関係がどんどん売上げ下がっているそうなので、きっと富永先生などは知っていると思うんですが、仲見世などでも大分売上げ下がっているという話も聞いているんで、ぜひ、すみませんが、その辺も気にしておいていただけるといいなと思いますんで、よろしくお願いします。

○委員長 要望だけでよろしいですか。

じゃあ、太田委員。

◆太田雅久 委員 かつて国交省の企画で観光地域プロデューサーという方が台東区に来て、JTBの執行部の方だったんじゃないかな、その方が初めてマーケティング調査というのをやったんですね。したらね、初めてだったから、特に企業の方、お店の方たちがすごく喜んだ。要するに、観光客が何を欲しがっているのか分かんなかった、何にも分かんなかった。うどん食べたいのにそば屋ばかりで困ってしまったという話じゃないけれど、要するにそういった調査を皆さんにばあっと広げて物すごくよかったという思いもありました、私、いろいろ聞きました。

それ以来、いろいろ調査的には台東区もやってきましたよね、エージェントに対してもやってきたりもしました。ここが観光と産業でしたが、文化も入れて一緒にやってもらったらいいいかなと思った。そうすると、文化、産業、観光部署が1つということでありますんで、ぜひそれも入れて取り組んでいただきたいと。

あと、今、石川委員もおっしゃっていたけれど、やはり飲食関係、これもぜひやってもらいたい。あともう1回、日本人の観光客というか、対象にすると、エージェントを対象にした台東区のプロモーションも、そういった会をぜひやってもらいたいなというふうな思いもあります。これは世界で見ると、やはり観光、シティセールスやっているところがすごく多いんですけど、我々が姉妹都市であるオーストリアなどは、年に1回、必ず大プロモーションをやるんですね、そこでね。そして、特に冬が多いんですけど、オーストリアは、世界各国からそのエージェント集めてやった結果、物すごく観光で世界ナンバーワンをずっと位置づけてやっていたという話もありました。だから、やはりそういったエージェントにも刺激を与えることも大事だと思うんで、そんなこともこれから取り組んでいただきたいなというふうに思っていますが、いかがでしょうか。

○委員長 観光課長。

◎横倉亨 観光課長 エージェント関係ですとか旅行案内通訳者等のセミナーというのは、大きな規模ではないんですけども、個別にやっているというところはあるんですね。例えば見番を紹介したりですとか、いろいろと台東区の隠れた文化を見てもらったりですとか、我々は当然誘客と、あと地域にもっと回遊してもらいたいということで、メインのところではなくて、ちょっとなかなかずれた、ずれたということはないですね、地域のところの魅力を発掘するためのこういったプロモーションですとか、そういうのをかけて、そういった大きなプロモーションではないんですけども、通訳者ですとか、そういったエージェントですね、そういった

※正式な会議録が作成されるまでの暫定的なものであり、今後修正されることがあります。

方にはちょっと来ていただいて、いろいろなところを見ていただいているというのはやっている事業でございます。

委員ご指摘のとおり、今後、やはりそういったプロモーション活動も引き続き必要だと感じていますので、また引き続き、頑張っていきたいというふうに考えてございます。

○委員長 太田委員。

◆太田雅久 委員 エージェント対象だと全て網羅できるのね、産業もそうだし、飲食もそうだし、いろいろな分野、台東区の全てをこうやってプロモーションできると思うんで、ぜひやっていただきたい、進めていただきたいなど、力を入れてもらいたいと要望して終わります。

○委員長 ほかがございませんか。よろしいですか。

(発言する者なし)

○委員長 ただいまの報告については、ご了承願います。

理事者からの報告は、以上であります。

○委員長 案件第1、文化政策及び観光について、その他ご発言がありましたら、どうぞ。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 おはかりいたします。

案件第1、文化政策及び観光については、重要な案件でありますので、引き続き調査することに決定いたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長 ご異議ありませんので、そのように決定いたしました。

○委員長 以上で、案件の審議を終了いたしましたので、事務局次長に委員会報告書を朗読させます。

(櫻井議会事務局次長朗読)

○委員長 これをもちまして、文化・観光特別委員会を閉会いたします。

午前11時38分閉会